

平成25年度「いしかわ学びの指針12か条」推進校指定事業

# 研究紀要

## 研究主題

学ぶ意欲を育て、自ら考え伝え合う生徒の育成

～ 「書く力」から「話す力」・「聞く力」へ～



平成25年11月26日(火)

輪島市立松陵中学校

## < 目 次 >

### ○ はじめに

#### I 研究の概要

|           |       |   |
|-----------|-------|---|
| 1 研究主題    | ..... | 1 |
| 2 主題設定の理由 | ..... | 1 |
| 3 研究組織    | ..... | 1 |
| 4 研究構想図   | ..... | 2 |
| 5 研究の内容   | ..... | 3 |

#### II 研究の実践

|          |       |       |
|----------|-------|-------|
| 1 授業づくり部 | ..... | 4～7   |
| 2 基盤づくり部 | ..... | 8～10  |
| 3 家庭学習部  | ..... | 11～13 |

|              |       |    |
|--------------|-------|----|
| III 研究の成果と課題 | ..... | 14 |
|--------------|-------|----|

# I 研究の概要

## 1 研究主題

**学ぶ意欲を育て、自ら考え伝え合う生徒の育成**

～「書く力」から「話す力」・「聞く力」へ～

## 2 主題設定の理由

本校生徒は、学校生活全般において真面目に取り組む生徒の割合は高く、授業に臨む姿勢や生活態度は概ね落ち着いている。学力調査等の結果からは、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けて活用力を伸ばしている生徒がいる一方で、学力の定着が不十分な生徒もあり、学力の二極化の課題が見られる。

昨年度より3年間の県指定を受け、学力の課題を克服するために、基礎的・基本的な知識や技能の定着と活用力を高める取組を同時に進めていくことを学力向上の中心に据え、「いしかわ学びの指針12か条」を重点化した取組を推進している。

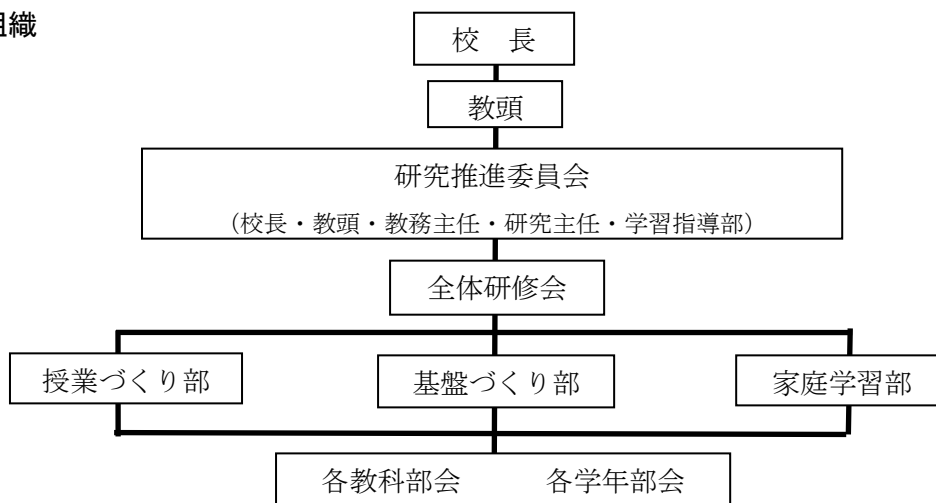
研究主題「学ぶ意欲を育て、自ら考え伝え合う生徒の育成」を3年後に実現させる目標として設定し、その年度の重点を副題に位置づけることとした。昨年度、副題を「書く活動とその評価」とし、活用力を高める授業づくりでは「書く力の育成」に重点を置き、学力・学習を支える基盤づくりでは家庭学習の充実や学習規律の向上などの取組を進めてきた。

活用力を高める授業づくりでは、学びの指針①の「根拠や筋道を明確に表現させる」と関連する言語活動を意識した授業や単元の計画を実施・検証してきた。その結果、根拠を明確にして自分の考えを書ける生徒や教科の用語を適切に用いて表現する生徒の割合が増えてきた。その一方で、根拠の取り出し方に甘さが見られ、相手意識を持った文章を書く力が不十分であることが見られた。

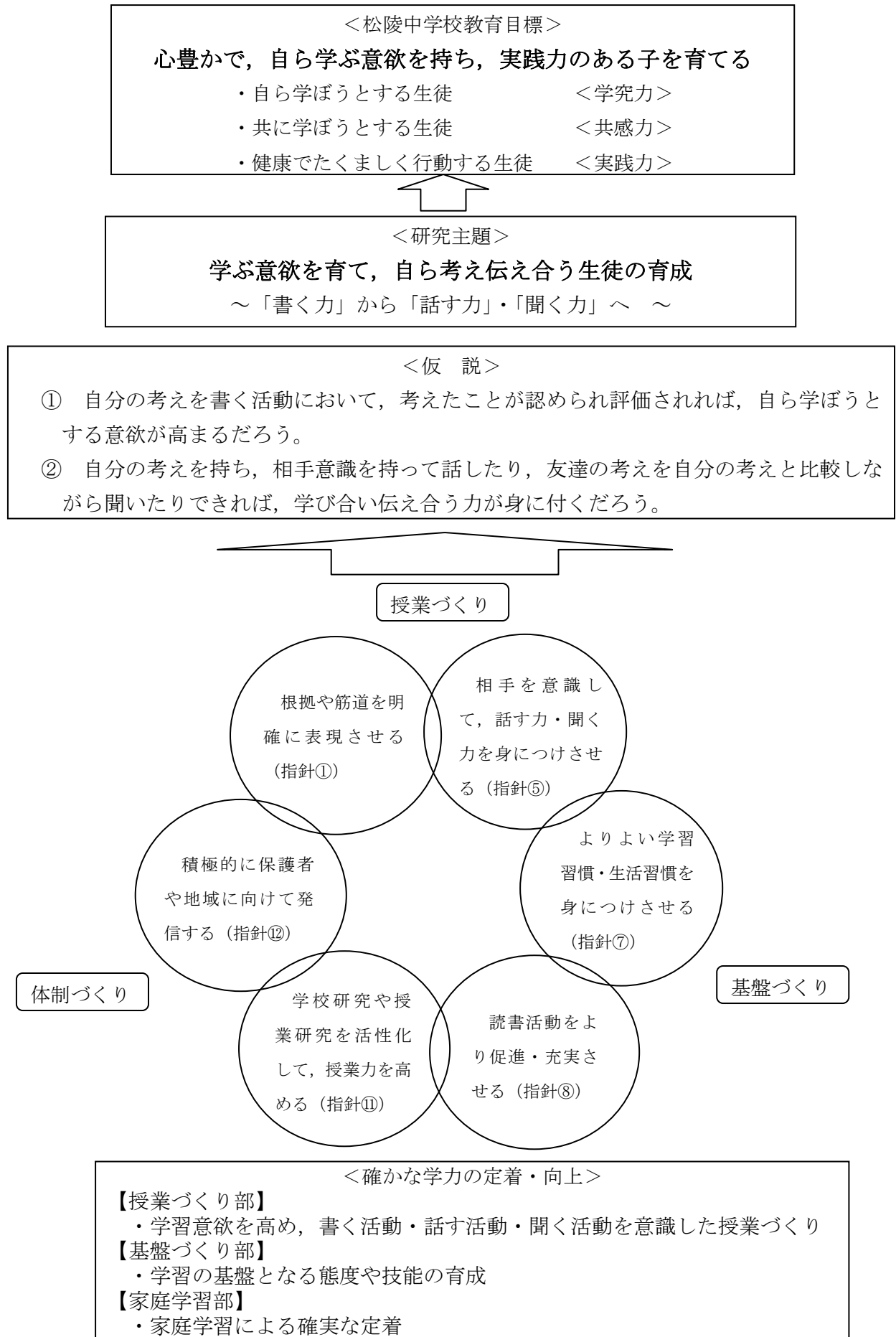
そこで、今年度は「書く活動」をさらに充実させるとともに、書いたものをもとに「話す活動」、「聞く活動」につなげていきたいと考えた。その際には、相手意識を持って話したり、聞いたりできるような指導が必要である。

自ら考え伝え合う活動を授業に位置付けることは、自らの考えを広げたり深めたりすることや表現する力を身に付けることにつながる。それが主体的に学習を進める力となり、研究主題の実現に迫ることができると考えた。

## 3 研究組織



#### 4 研究構想図



## 5 研究内容

研究主題「学ぶ意欲を育て、自ら考え伝え合う生徒の育成」にせまるために、「授業づくり」「基盤づくり」「体制づくり」の3つの柱から、生徒の実態を踏まえて重点化する項目を選び、授業改善・授業力向上や確かな学力の定着・向上をめざしてより具体的な方策を掲げて研究に取り組んできた。

### (1) 活用力を高める授業づくり

根拠や筋道を明確に表現させる。(学びの指針①)

#### ○松陵中授業スタイルの共有化

- ・根拠の取り出し方や筋道の立て方の指導
- ・相手に分かりやすい表現で自分の考えを書く指導

#### ○ノート指導

- ・書くことの評価の充実

### (2) 学力・学習を支える基盤づくり

相手を意識して、「話す力」「聞く力」を身に付けさせる。(学びの指針⑤)

#### ○相手を意識した話し方・聞き方のポイント提示

- ・「話し方名人」, 「聞き方名人」による指導

よりよい学習習慣・生活習慣を身に付けさせる。(学びの指針⑦)

#### ○学習規律の徹底

- ・「授業の約束4箇条」の取組

#### ○家庭学習の充実

- ・家庭学習の充実への取組

- 1 学習用具や服装を整える
- 2 ベル着をする
- 3 授業の始めと終わりの挨拶をする
- 4 私語をしない

読書活動をより促進・充実させる。(学びの指針⑧)

#### ○読書活動の充実と推進

- ・読書の習慣化
- ・読書に親しむ環境づくり

### (3) 指導改善を進める体制づくり

学校研究や授業研究を活性化して、指導力を高める。(学びの指針⑩)

#### ○校内研修の充実

- ・模擬授業の実施
- ・自由参観授業
- ・KJ法による授業整理会
- ・校内研修サポート事業, アシスト訪問等の利用

積極的に保護者や地域に向けて発信する。(学びの指針⑫)

#### ○地域に開かれた学校づくり

- ・定期的な授業公開や授業参観
- ・学校 Web ページでの実践と取組の紹介
- ・地域や保護者の意見の反映

## II 研究の実践

### 1 授業づくり部

「わかる授業」づくりを目指して、授業の流れをパターン化し、全員が同じように取り組むことで授業力の向上を図ってきた。

#### (1) 松陵中授業スタイルの共有化

##### 導入の工夫

- ・ 知的好奇心をくすぐる課題を提示する。
- ・ 必要感のある課題を提示する。
- ・ 解決の見通しが持てているか確認する。

##### 展開の工夫

- ・ 個人思考の場を設定する。
- ・ 話し合う目的を明確にした「伝え合う場」を設定する。
- ・ 相手意識をもって話したり聞いたりできることを目指す。
- ・ 授業形態を工夫する。

ペア・グループ活動，全体思考

- ・ 基本的な姿勢として

「話し方名人あいうえお」と

「聞き方名人あいうえお」を

意識させる。

##### まとめの工夫

- ・ 生徒の言葉を生かしながらまとめる。
- ・ 適用問題で定着を図る。
- ・ 振り返りをする中で、「充実感」「達成感」を持たせる。

##### 板書の工夫

- ・ 板書を構造化して、授業後に学習したことが目に見えるようにする。

- ・ **課題** **考え** **伝え合い** **振り返り**

##### まとめ

のプレートを利用することで、生徒に1時間の見通しをもたせる。

また、生徒の意見や話し合いの内容を効果的に整理し、授業

(思考)の流れを生徒も教師も

共有できるようにする。



松陵中授業スタイル

| 過程  | めざす生徒の姿   | 教師の手だて・働きかけ  |
|-----|---|--|
| 導入  | <p>課題をつかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習事項を想起している</li> <li>・ <u>課題を解決しようとする意欲をもっている</u></li> </ul> <p>解決の見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習事項とつなげながら解決する見通しをもっている</li> </ul>   | <p>課題を提示する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意欲をもたせるための<u>課題の提示を工夫する</u></li> <li>・ ねらいに迫る<u>必要感のある課題</u>を設定する</li> </ul> <p>見通しをもたせる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全員が課題をつかんでいるか確認する</li> <li>・ 必要により既習事項を確認する</li> </ul>   |
| 展開  | <p>自分の考えをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>自分の考えを根拠を示しながら書いている</u></li> <li>・ 「<u>根拠とは</u>」を参考に</li> </ul> <p>考えを伝え合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>自分の考えを根拠を明確にし、筋道立てて話している</u></li> <li>・ 友達の考えを自分の考えと比較しながら聞いている。</li> </ul> <p>「<u>聞く名人あいうえお</u>」を意識して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝え合いから自分の考えを深めている</li> </ul> | <p>思考する場を設定する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人の思考の場を確保し、<u>机間支援で一人ひとりの考えやつまずきを把握する</u></li> </ul> <p>伝え合う場を設定する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何のために伝え合うのか<u>目的を明確にする</u></li> <li>☆一番いい考えを選ぶため</li> <li>☆できるだけアイデアを集めるため</li> <li>☆よりよい考えにまとめるため</li> <li>・・・など</li> </ul> <p>「<u>切り返し展開</u>」で生徒の意見をつないだり広げたりして思考を深めていく</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆○○さんの意見と同じ人はいませんか</li> <li>自分の言葉で話してくれますか</li> <li>☆○○さんの意見と違う人はいませんか</li> <li>どこが違いますか</li> <li>☆○○さんの意見をまとめていうと</li> <li>・・・など</li> </ul> <p>・ <u>思考の流れがわかる板書を心がける</u></p> |
| まとめ | <p>学んだことを振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題に沿って分かったことをまとめている</li> <li>・ 本時を通して友達から学んだことや考えの変容を振り返っている</li> </ul>  | <p>学んだことを自覚させる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題に沿って生徒の言葉を生かしながらまとめる</li> <li>・ 適用問題などで定着を図る</li> <li>・ 本時を振り返り「わかった」「できた」という達成感や充実感を味わわせる</li> </ul>  |



## 《実践例》

### ○英語科 1年 自己紹介

**本時のねらい** みんなからの質問を参考に、5文以上の自己紹介文を書くことができる。

**伝え合いの場** グループでスピーチをし、もっと知りたいところについて質問し合う。

### ○理科 3年 太陽系とその中の天体

**本時のねらい** 月の満ち欠けをモデルを用いて説明できる。

**思考の場の設定** グループごとにモデルを使って実験をし、各班と自分たちの考えを比較する。



## (2) 模擬授業の実施

授業の具体的なイメージをもち、課題を見ついたり改善策のアイデアを出し合ったりするために、模擬授業を実施した。

### 模擬授業の方法

- ① 授業者が本時のねらいと重要場面について説明する。
- ② 30分程度の模擬授業を行う。
- ③ 授業者の発問や指示に対して生徒役の教師が、予想される生徒の反応を考えながら発言や活動を行う。
- ④ 生徒役の発表  
曖昧な発問・指示や使用する教材等について気付いたことを発表する。
- ⑤ 授業者の発表
- ⑥ 出された意見を全体で確認する。
- ⑦ 授業の改善策を共通理解する。



## 《実践例》

### ○数学科 1年 「正負の数の利用」

(重要場面) 自分の考えを持ち、伝え合う場面

(参加者) 金沢大学教授 大谷 実 氏  
本校職員および近隣校教員

### 参加者から

- ・意見が出た時に、「みんなはどう思う？」と返すことで、深めることができる。
- ・グラフや式を使って説明するなど、数学の視点を入れて説明させるとよい。
- ・方法の説明だけでなく、理由を話題にするのが大切。



○英語科 3年 「Unit5&Listening Plus5」

(重要場面) 自分(グループ)の意見や理由を伝え合う場面

(参加者) 奥能登教育事務所指導主事 吉村 明美 氏  
本校職員



**参加者から**

- ・指示や説明が不足し、考えが持ちにくかった。
- ・質問があった時に、書く内容を明確にすればよかった。
- ・グループの意見を1つにまとめず、出た意見を紹介してもよかった。
- ・単元の最後の授業という設定であり、生徒が積み上げてきている知識などが生徒役にはないため、模擬授業がしにくい状況だった。
- ・生徒のゴールの姿をイメージし、それを具体化していくように、学習活動を組み立てていく必要がある。



(3) 自由参観授業

日頃からお互いの授業を見せ合い、振り返りをするなど、授業研究を日常的なものにすることが授業力向上につながると考え、自由参観授業を取り入れた。

自由参観週間を設定し、時間のとれる範囲で参観した。

参観者が記入した「自由参観カード」を生かし、授業の振り返りをした。

自由参観カード

参観者 ( )

| 9月9日(木曜日)/曜日 / 限目 / 年之組 教科(教養) 授業者( ) 教諭 |   |  |
|--|---|--|
| 参観の視点                                    | 成果・課題・改善策   |  |
|  | 評価  | 生徒の様子                                  |
| 1. 課題                                    | ○ ねらいに沿った明確な課題の提示をしたか                               | ○ 課題をつかんでいるか                           |
| 2. 考える                                   | ○ 課題解決の見通しを持たせることができたか                              | △ 課題解決への見通しを持っているか                     |
|  | ○ 個に応じた指導があったか                                      | ○ 自分の考えを根拠を明確にしてノートやワークシートに書いているか      |
|  | ○ 学習形態(ペア・グループ・全体)は効果的であったか                         | ○ ペア・グループ等で話し合っているか                    |
| 3. 伝え合う                                  | ○ 単元導入時に求めたマッチ棒の図が残っている場合は、それを提示した方がよい。             | ○ しっかり書いている生徒と全く書けていない生徒がいる。           |
|  | ○ 発表の目的意識・相手意識等を持たせて発表させていたか                        | △ 根拠や理由を入れて自分の考えを発表しているか               |
| 4. まとめ                                   | ○ 生徒が発表したとき、その発言のよさを認めていたか                          | ○ 友達のことを積極的に取り入れようとしているか(メモを取る等)       |
|  | ○ 発表用シートが小さくて、字が見えにくい。                              | ○ (x-1)や(x+1)についての説明が不十分だった。           |
|  | △ 課題に沿ったまとめになっていたか                                  | ○ まとめをノートやワークシートに書いているか                |
| 5. 4箇条                                   | ○ 学習の流れがわかる板書となっているか                                | △ 学習内容が理解できているか                        |
|  | ○ 最後のとりつきもx+1になるというのは、本時の課題には必要だったか                 | ○ 「文字式から考え方がわかる」という実感があった。             |
|  | ○ 始業のベル前に教室に入ったか                                    | ○ ベル着していたか                             |
|  | ○ 時間内に授業を終えたか                                       | ○ 学習用具を準備しているか                         |
| 6. その他                                   | ○ 生徒全員を見て挨拶していたか                                    | ○ 起立してしっかりと挨拶ができたか                     |
|  | ○ 学習規律を意識して生徒に声をかけていたか                              | ○ 私語をせず授業に集中していたか                      |
|  | ○ 自由解決の時間を確保してよかったが、発表時間がまとめる時間が足りなくなったので、時間配分の工夫を。 | ○ とても集中して取り組んでいたためよかった、ノートもていねいに書けている。 |

**実施強化期間**

9月17日(火)～24日(火)

**参観カードから**

考える場面

- ・何を考えさせるのか指示や内容が大切である。
- ・手順が示されていてよかった。
- ・既習の後を残し、利用する。

伝え合う場面

- ・「あいうえお」を効果的に意識させていた。
- ・ペア学習で意見をよく書けていた。
- ・生徒がメモを取ろうと頑張っていた。

\*参観の視点に沿って評価を記入して下さい。(◎とても良い ○良い △改善したらよい) \*記入後、コピーして授業者に1部、濱高に1部提出してください。

→ 入れるとすれば、すべてx+1になるか。(5)(6)(7)の形だと「考え方がわかる(鏡みと小)」こへもどすと分かる